

2024年度 第2回朝日医療大学校学校関係者評価委員会 報告書

朝日医療大学校は、2024年度 第2回朝日医療大学校学校関係者評価委員会を次の通り実施しました。

実施日：2025年2月21日（金）19:00～21:00

場 所：朝日医療大学校（オンライン開催）

【出席委員】

松沢 義彦	（松沢治療院）
荒尾 賢	（公益財団法人 操風会 岡山リハビリテーション病院）
松尾 敬子	（前：独立行政法人 国立病院機構 岡山医療センター）
大枝 砂与	（社会医療法人 鴻仁会 岡山中央病院）
中山 良子	（地方独立行政法人 岡山市総合医療センター岡山市立市民病院）
岡田 幸仁	（雲風堂接骨院）
門田 弥生	（保護者）
三浦 貴久子	（岡山理科大学 参与）
鈴木 茂和	（株式会社アールケア）
橋本 泰典	（橋本義肢製作株式会社）
草地 清志	（学校長）
山口 大輔	（教務部長）
前谷 智佐江	（教務部長 看護担当・看護学科 学科長）
武村 紀裕	（言語聴覚学科 学科長）
岡崎 恵子	（歯科衛生学科 学科長）
北村 圭司	（鍼灸学科 学科長）
横見瀬 ゆかり	（柔道整復学科 学科長）
多賀 一浩	（理学療法学科 学科長）
土光 裕子	（サポートセンター課長、評価・FD・SD 準備委員会 委員長）

報告事項・委員からの意見

◆看護学科

【報告事項】

1. 2024年度 GPA 結果報告
全学年中央値が低下しており、解剖等の基本的知識の低下が伺える
2. 教育支援について
昨年の学習困難状況の問題から保護者との連携強化に取り組んだ。
保護者会に加え、個別三者面談の導入、チューター制の導入
3. 学生満足度調査結果
学習指導（個別支援を含む）の満足度：68%（昨年度 67%）
教育・学習全般の満足度：65%（昨年度 54%）
10%程度は満足していないと回答しており、教員が5月～2月に実習引率のため不在となる。そのため、聞きたいときに担当教員が不在、学習がスムーズに進まず自身の思うような得点が得られず、もう無理といった諦めに直結してしまう傾向が強い
4. 評価基準の作成報告
5. 教員ラダーの作成報告
教員の必要な能力を5項目に分類して、各教員の経年別ラダーをもとにキャリアアップ支援

【委員からの意見】

- ・ 教員ラダーの作成について、各階層別において学校としてどの層にどのくらいの割合を理想としているのか。
→4段階評価である。4年以上の経験を持つ教員は3レベルに到達しておくことが理想と考える。年度末に自己評価を回収し、今後の教員支援体制を考えていくことは課題である。経験年数とレベル評価は個々の臨床経験が影響していると思われるため、一概には言えない。各教員、個別の支援をしていきたい。
- ・ 卒業生の支援体制の課題は大切である。就職して調子よくいっている学生は学校来校しやすいと思うが、臨床に上手いいかないと感じている方の相談、報告する実態把握はどのようにされているのか。
→臨床での現実を感じ相談に訪れる際は、ほぼ退職の決断をしてのことが多い。

悩み始める頃となる3か月、6か月に同窓会を開催することで、ともにし大事な時期に支援いただけるのは臨床としても有難い。ぜひ支援をお願いしたい。

- ・ GPAが3年次に低い理由は何か。
→クラスの中で主導者となる学生の存在があるかどうかで、結果を左右していると感じる。

実習においても、学生に寄り添う様子を見かける。しっかりと教員が支えている中で、保護者の支援体制も整えながら学生を支える体制は良い。今後、臨床に出たときに、助けてと言葉にできる、できないことも表現することはいけないことではない事を基礎教育で伝えていってほしい。

◆理学療法学科

【報告事項】

1. 前回提言に対する報告

前回、学生のモチベーションの保ち方についての提言があった。それについて、後期から「学習支援」という時間を特別に設けた。個別で目標設定を行い対応している。退学率低下に向けた取り組みについて、一番多い事由が学力の問題であり、先ほどと同様「学習支援」の中で対応している。現状は退学率が毎年5%を超えている状態。

2. GPA、学生満足度調査について

GPAについて、1年生前期のGPAが2.89。平均的な学力。学校満足度調査は、ほとんどの項目が約90%と概ね満足している。52%の学生が「授業が難しい」と答えている。個別で確認すると、高校時代から勉強していないという回答であった。「学校を辞めたいと思ったことがあるか」については24%、退学者は1名であった。2年生前期のGPAが2.2。昨年の2.35よりも低く、過去最低であった。退学者は2名。2年生になると専門の授業が増え、ハードルがあがってくるのが原因。満足度調査は、「学校辞めたいと思ったことがあるか」については1年生よりも多い結果。3年生前期のGPAは2.17。この学年は前回の会議での報告にもあるように、低いGPAが続いている。学年により学力には大きな差がある。留年後に退学となった学生が1名いる。満足度調査については2年生と同じような結果が出ている。「学校辞めたいと思ったことがあるか」については64%と高い。これは国家試験への不安の表れと思っている。あとはエアコンなど学校設備への不満が多くみられた。

3. 自己点検評価の報告

教育活動について、「関連分野における先端的な知識技能を習得するための研修や教員の指導力育成のための取り組み」を2点から3点に向上。コロナ等で制限していた活動が戻り、県土会参加や教員研修参加が非常に増えた。学習成果について、「退学率の低減が図られているか」は前期時点で退学率が3.1%と去年より低く3点とした。退学理由として、1人が学力的なもの、2人は成績良好にもかかわらずプライベートなことが原因。あとは留年後にそのまま戻ってこなかった学生が1人いる。

【委員からの意見】

- ・ 医療職種の場合、パラリンピックなどイベントがあると学生が増え定員が満たされる。そのようなきっかけがあって入ってくる学生は退学しないし、成績も比較的良く、就職にも結びつく。逆に、モチベーションが低い学生は、親からの紹介や資格目的のみ。入学するが、実習で思っていた仕事と違っていると辞めていく。大学生であれば、別の業界に就職するのだろう。そういったことが専門学校でも起きているのだと感じた。

◆言語聴覚学科

【報告事項】

1. 学校満足度調査結果報告

学校満足度調査について、教育学習の全般が70～80%前後。全項目他学科と大きな差異はない。「学生の相談に関する体制について」はあまり高い水準ではない。もう少し学生全般の生活や交友関係も含めた支援が必要と感じている。授業については多くの学生が何等かに困難さを感じている。対人関係は、約3割の学生が何らかの困難さを感じている状況。退学については、1/3程度の学生が考えたことがあるという結果

2. 自己点検評価の報告

教育理念育成は、次年度に新カリキュラムが動くため、地域のニーズにあったマネジメントができるようになる。次年度以降に評価点が上がると考えている。授業評価について、まだまだ形骸化している状態。「退学率の低減が図られているか」について、現状退学率が6～7%。原因として、入学してくる学生に学習習慣が身につけていない者が多く、その影響で退学につながっている。

GPAについて、国家試験の合格水準が2.6～2.8。現状合格水準を満たしている1年生は14名中8～9名。2年生は、専門科目があるため低下している。3年生は22名在籍していたクラスだが、11名まで減少した。

退学について、留年や退学または遅れ卒業が出ている。1年生は勉強習慣が身につけていない学生が2名。2年生は見学実習をリタイアした学生や「この仕事に向いていない」と感じる学生、勉強習慣や生活習慣が規則正しくできていない学生であった。その他に、ASDの学生や精神的な問題を抱えている学生。11名の3年生の中で国家試験を受けた学生が8名。2名は実習のつまずきにより、追加実習となるため遅れ卒業となった。つまずきの理由としてはコミュニケーションや社会的態度への指摘であった。1名はどのようにコミュニケーションや社会性の問題により留年となっている。国家試験の結果は8名中5名が合格ラインを超えている。

前回の提言について、学生のモチベーションの保ち方は学外活動を積極的に推奨していく。施設見学ボランティアや県士会イベントに参加するよう依頼している。退学率低下に対する取り組みはなかなか難しい。負荷に対する耐久性が低いため個別対応でサポートしているが十分行き届いていない現状がある。精神的に安定した学生の教育について、志望動機の弱い学生が多い印象があり、社会人として排出できるだけの教育ができていない。

【委員からの意見】

- ・ スタートラインが低く、学習習慣が乏しい学生にモチベーションを上げていながらSTの魅力伝えていくのは難しい印象がある。現状はどうしても難しい学生がい

るのであれば、ある程度の退学率は致し方ないと感じる。STのリハビリを受けた学生はいるか。

→子どもの頃に何らかの言語聴覚療法を受けた学生がいる。軽い構音の問題の例もあるので、すべてが発達の支援というわけではない。そういった学生が一定数いる。

・言語聴覚学科の専門実践教育訓練給付制度について

言語聴覚学科は次年度から専門実践教育給付制度に認定された。入学者数や就職率、合格率などの基準を満たした場合支援対象となる。社会人は年間130万円程度の給付が受けられる。次年度から3年間の認定が受けられる。学校としては社会人を獲得しやすい環境になるため、退学率のことも踏まえるとよい流れにならないかと思っている。

鈴木先生から質問のあった、専門学校は不利かどうかについて、併願する学生も多く、まずは大学が選択肢になっている。入学してくる学生の出身校についても全体的に偏差値が低下してきている。言語学科からの質問として、Z世代的な考えとして物事を諦めることが早い印象だが企業ではどうか、また、合理的配慮が義務付けられるようになったが企業ではどうか。

→学校と共通点は多い。5、6年でもものすごく変わった。若い人の選択肢が増えたことが原因なのか、昔は仕事を一つ選べばそれに専念してきた。今はそうではない印象があり、失敗したらすぐに乗り換えて違う選択肢を選んでいくように感じている。職業人として魂とかソウルは伝えるようにしているが、効果あるかどうかはわからない。

→今は学生に負荷をかけないようにサポートしている。支援という形で教育している。すぐに諦めるとかすぐに決めることが多くなっている印象。就職時この仕事が向いているか疑問に思いながら働いている。もうちょっと粘って考えてもいいと感じる。自己肯定感も低いし、できてないのにできていると感じる人が多くなった。先輩の指導者からも負担を感じるが増えている声を聞く。

→学校教育でも伝える側に負荷が上がっている印象がある。

考えられない学生というか、学生に選択肢が多いことに共感した。学力が低い学生が増え、いい意味でダメだったら次いけばいいというのがあり、粘っていない段階で諦めることがある。先ほど話した学生の中でも、急にビジネス系の専門学校に進むなど、相談なく決めていく。そういった学生も多くなっていくことを考えると、もう少し耳を傾ける必要もあるかなと思う。

◆歯科衛生学科

【報告事項】

1. 2023年度 自己評価からみえた課題について

- ・専任教員の教育指導力のばらつき
- ・退学率の上昇

2. 教育指導力のばらつきへの取り組み

教育に関する会議を開催

学科目標から現状の分析を行い、各学年の目標や学生指導の内容など教員間で共通認識できるように話し合いを実施した。

検討事項は以下の通り。

- ・2025年DH学科の教育目標について
- ・問題点の抽出
- ・どのような学生を育てたいか
- ・2025年度カリキュラム・時間割について
- ・円滑に業務を行う工夫について

3. 退学率低下への取り組み

- ・1人暮らし学生のメンタル面のサポート

→1人暮らし応援の会（5月・11月）

- ・つながり・団結力の強化

→3学年合同運動会・各学年クラス会

合同実習：1・3年生（4月）、1・2年生（5月・1月）

- ・「学び続けること」と「やりがい」を結びつける

→症例発表：3年生（9月）、2年生（2月）

模擬患者実習（3年生）

4. 退学率に関する 中間評価

退学率：12.8%から6.0%に改善した。

- ・主な退学理由

精神的問題：50%、進路変更：37%、学力不振：13%

5. 各学年の GPA・学生満足度調査について

【委員からの意見】

- ・ ①専任教員の教育指導力のばらつき
各専任教員の強み・弱みがあるので、会議を通して各担任が抱えている問題を共有し、お互いに対応方法などを言い合って検討することが大切だと思うので、この会議が途切れないように続けてほしい。
- ・ ②退学率の上昇
学生満足度調査から「学習に困難を抱えている」「学校をやめたいと思っている」の割合が1割いる。今回の調査が3学年合同の調査なので、1年生がどの程度の割合なのか分かったら対応が早くできるのではないかと。
- ・ 1・2年生の3割近くが GPA2.0 以下というのが気になった。どんなに苦しくても「自分はできそう」「自分にもできるかもしれない」というような自分の可能性を信じられるような感覚を持ってもらえるようにしていきたい。
- ・ 3年生の保護者を招いての実習は、学校でどのようなことを学んでいるのか分かるよい取り組みなので、続けて実施してほしい。
- ・ 大学進学を志望する高校生が増えているということなので、大学を卒業してから専門学校へという大学へのアピールも必要なのではないかと。
- ・ 勉強ができるだけでなく、精神的なサポートの重要性を強く感じた。サポートセンターがあるのに知らない学生が多いのは、何を相談してよいのか分からないのかもしれない。担任制で、学生によっては担任と合わなかったり、それを見るのと辛いということがあると思う。どういうやり方がよいか分からないが、精神的サポートが大事なものが分かったので頑張りたい。

◆鍼灸学科

【報告事項】

1. 前回の提言に対する報告

退学防止に対して、入学前教育を実施してはどうか。

→今年度、入学前教育をすべての学科が11/23、2/22の計2回実施。入学時の雰囲気や退学者を含め今後結果を見ていく。

国家試験に対する意識を上げてほしい。

→1, 2年時の意識の底上げが重要。授業でGPAや模試の成績を前学年と照らし合わせて自身の現状が解かるように話しているが、直接的に意識の底上げには結びついていないと感じている。

2. 学校満足度調査結果報告

6学科の回答と鍼灸学科のみの回答を比較しても大きな差異はみられない。学校を辞めたいと考えたことがある学生が20%程度存在する現状にどう対応していくか検討する必要があるが、サークルや学校行事を通して学校に滞在する時間を長くすることができれば辞めたいと思うケースが減少するのではないかと考える。

1年時の実技授業で困難を感じる学生がみられるケースもあるので、教員が個別対応等もできる環境を整えていきたい。

3. GPAなどの学生の学習状況に関して

2024年度の前期のGPAを2023年度の同学年のGPAと比較。3年生に関しては前年度に比べて午前コースは顕著にGPAの数値が高く、それに伴い国家試験対策でおこなっている模試の点数も高い。

1年午前は前年度よりGPA平均値0.04、中央値0.19、2年生午前コースはGPA平均値0.39、中央値0.29、2年生午後コースでGPA平均値0.49、中央値1.08低くなっており、国家試験受験には3年次のGPAが2.5以上は今年度の成績を鑑みると必要であるが、現状2年生は半数以上の学生が2.5を満たしていない。

◆柔道整復学科

【報告事項】

1. 前回の提言に対する報告

退学防止に対して、入学前教育を実施してはどうか。

→鍼灸学科同様に全学科共通で入学前教育を2回実施している。退学の原因として友人との関係性がうまく作れていないなどの人間関係が大きな要素となっているため、入学前教育のテーマとして関係の構築をメインに実施した。参加学生がSNSや連絡先を交換しており、いい関係が構築できたのではないかと考える。

課題は1回目に参加していない学生のギャップを埋めることである。

国家試験に対する意識を上げてほしい。

→3年生同様に2年次にも模試を実施。模試を実施するのみではなく、模試ごとに目標値を各自設定しクリアできるように取り組む指導をしている。また、基本的なことではあるが学校に必ず登校するなど徹底して指導している。1年時には学校に残って学習する習慣をつけるように実施していくなかで、今まではデイリーノートで実習報告等を実施していたが、1年生は小さいノートで交換日記のような形がとれるように取り組んでいる。結果、今年度1年生午前コースは退学者が0人である。

2. 学校満足度調査結果報告

教育内容に関しては満足している学生が多いが、困難を感じている学生が約50%である。本来であれば、講師が理解しやすいように心がける必要があるところではあるが、柔道整復学科の講師要件で常勤の講師が担当できない科目もあり、理解度が進まない現状もある。

今年度の休学や退学の原因として学生間の人間関係などがあるが、人間関係の構築の中には学力が低く、周囲の学生との距離を感じてしまう場合もある。

3. GPAなどの学生の学習状況に関して

昨年度の国家試験の不合格のラインがGPAで2.71であった。今年度3年生が午前、午後合わせて30名いるがGPAで2.71未満のもので予測すると最低で71.4%であるが、今年度の3年生の取り組みを見ていると予測より高い数値を期待している。

また、本来であれば卒業延期となる2名の学生は保護者・本人と話した結果、留年という形をとることとなった。続いて、現3年生の2年時のGPAと現2年生のGPAを比較すると、午前コース26名中16名が国家試験の不合格ラインである。3月3日に第33回の国家試験を実施。一般問題で100点未満の学生には3月中の平日に毎日フォローアップを行う。後期末の再試験対象者も同様にフォローアップを行う。

2年生午後コースは、昨年度からの留年者が多く含まれる。GPAで見ると2.0に満たない学生が多い。保護者や本人とも面談を重ねて学習意欲等の向上をはかっているが結果は得

られていない現状である。3年生に進級するのかを含めて今後も面談等を進めていく。

【委員からの意見】

- ・ 入学前教育など先生方は非常によく取り組まれていると感じる。近年の学生に傾向では精神年齢が低い学生が多いように感じるが、その様な学生にどう向き合っていくか検討が必要である。野球サークルなどが好成績を残しており、その様な活動も学校の広報になってとてもいいと考える。

→学生との距離感をどのように保つかをしっかりと考えていく必要がある。

- ・ 学生が楽しいと思える学校作りが大切である。SNS等での発信を通して学校が楽しいと思えるようにしていく工夫を検討していかなければいけない。学生からの発信も重要ではないかを感じる。また、教員の負担も鑑みて教員の定員の充足も必要ではないかと感じた。自習室などの環境はどうなっているか。

→鍼灸学科、柔道整復学科ともに学科ごとの自習室は2つずつ持っているが、全ての学生が学習しやすい環境ではない。今後自習室の充実を検討していく必要がある。

両学科ともに規定上は8人の教員が必要である。適切な働き方ができるように工夫が必要。

- ・ 両学科ともに非常に教育に積極的取り組まれており、心強い。